



ステークホルダーの皆さまには、平素より温かいご支援、お引き立てを賜り、心より御礼申し上げます。

2016年度上期の実績

当上期は、マイナス金利や円高、株式市況の軟調な推移等、厳しい経済金融環境が続きました。そうした中、私たちは、リスクに十分な注意を払いつつ、環境変化に伴うチャンスをつかえるとともに、将来に向けたビジネスモデル改革もしっかりと前進させました。具体的には、グループ会社間や国内外の拠点間の連携強化を進め、法人のお客さまに対するご融資等のソリューション提供、個人のお客さまに対するお借入れや資産運用についてのコンサルティングに注力いたしました。また、お客さまとの複合的な取引の推進や海外アセットの資産効率の改善に取り組みしました。

このような取組に加え、経費の抑制的な運営を行ったことや、与信関係費用を低位にコントロールできたことから、親会社株主に帰属する中間純利益は3,592億円と5月公表の目標を上回る進捗となりました。

今後に向けて

今年度は3カ年の中期経営計画の最終年度です。計画に掲げた各種施策の推進により、成長への手応えを大いに感じております。当初の想定と比べますと、事業環境は大きく

変化しており、財務目標については達成が困難な部分も出てきていますが、これまでの取組の成果実現に拘り、しっかりと締めくくる考えです。

そして、来年度からは新たな中期経営計画をスタートさせるとともに、グループ経営の高度化に向けて、指名委員会等設置会社へ移行し、CxO*制度や事業部門制を導入する予定です。今後を展望いたしますと、世界的な政治・経済動向の不確実性や国際金融規制の強化など、難しい事業環境の継続が見込まれます。変化へのプロアクティブな対応を心がけ、資産・資本・経費効率の向上に軸足を置いた「質」に拘った経営を行うことで、引き続き企業価値の向上に努めてまいります。

*CFO(Chief Financial Officer)、CRO(Chief Risk Officer)等の総称

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年1月

三井住友フィナンシャルグループ
取締役社長 宮田 孝一

三井住友銀行
頭取 國部 毅

宮田 孝一 國部 毅